

## 和良の郷だより

鈴虫号  
和良おこし  
協議会発行  
あこし  
協議会

## 鮎友釣り教室開催

## 初めての鮎友釣りを応援

鮎友釣りの最盛期の8月。和良では小中学生や友釣り初心者対象の鮎釣り教室が行われました。参加した小学生から大人の初心者にはベテランの釣り人らの手ほどきを受けながら、和良川での鮎釣りを楽しめました。



釣りあげた鮎を片手に笑顔を見せる参加者

この時期になると和良川では、伝統的な漁である「火振り漁」が毎年行われます。今年は8月10日(月・祝)の夜に行われ、和良川漁業協同組合の漁師さんたちが、それぞれの場所で夕方に集まり、川に網を張りました。

## 幻想的な伝統の風景

して川の中を移動しながら振ります。その明りに驚いた鮎が泳ぐうちに網

り最終章を迎えますが、和良川の鮎友釣りはまだまだ楽しむことが出来ま

す。友釣り専用区が設けてありますので、9月10日(木)まで十分に楽しんでいただけます。詳細などは和良川漁業協同組合までお問い合わせください。

クラスの活動費となる様です。

翌日の8月7日(金)

には小中学生を対象に、和良川を守る会と和良川漁業協同組合とが共催する「和良鮎友釣り教室」が開催されました。参加してくれた子どもたちは例年より多い24名で、小学校高学年と中学生は鮎釣りに挑戦し、低学年は魚釣りや雑子とりなどに挑戦しました。

この日は涼しくて、川の水は冷たさを感じるくらいでしたが、魚釣りに挑戦する子どもたちは餌となるガイムシ(クロカワムシ)を確保するために元気に水の中へ向かいます。高学年の子供たちは地元鮎釣り名人に連れられて鮎釣りにとりかかりました。この日は一人

で5匹釣り上げたり、3匹釣り上げたりする子どももありました。釣り上げた鮎は、塩焼きにしてお昼ご飯にみんなで食べます。塩焼きの他にも、みんなで獲ったチチコ(カワヨシノボリ)やアジメドジョウの素揚げ、おにぎり、焼きそば、フランクフルトなどたくさん食べました。

今年の夏休みは、コロナ禍にあつて、どこにも出かけられなくて寂しい思いをしている子ども達もあります。そんなときは、安全に気を付け、和良川でめいっぱい遊んでほしいと思います。

8月21日(金)、25日(火)には和良おこし協議会主催で初心者向けの鮎釣り教室が行われました。当初7月に予定して

いましたが、長雨による増水により、全日程がキャンセルになってしまいました。しかし、関係者の方々のご協力により、8月に開催できる運びとなりました。

21日は和良川漁業協同組合の加藤広雄組合長、理事の蒲嘉行さん、副組合長で和良川を守る会会長の太澤克幸さんに講師を務めていただきました。

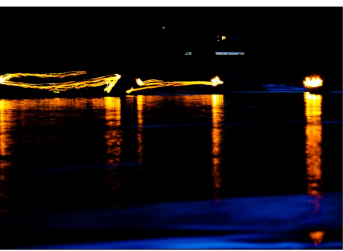
注意事項などをお伝えした後、早速和良川で釣りを始めます。既に気温も上がってきて暑さを感じます。渇水で苦戦も予想されましたが、始まってしばらくすると参加者の竿に鮎がかかり始めました。終わってみると参加者全員が釣れ、なんとこの日の最高釣果は12匹でした。それぞれ大物を釣り上げ、満足げな様子でした。

お昼には炭火で焼いた和良鮎の塩焼きを食べていただきました。参加者同士で話も盛り上がり、いた様子で、和やかな雰囲気の中、講座を締めくくることができました。

## はぎこ探検隊

8月22日(土)、講師に岐阜大学の向井貴彦先生をお迎えし、和良おこし協議会主催で「はぎこ探検隊」を開催しました。陽射しが強く、暑い日となりましたが、元気な子どもたちがたくさん参加してくれました。初めて聞く方何のことかと戸惑われますが、和良では「オオサンショウウオ」のことを「はぎこ」と呼びます。

向井先生からはこの歴史や生態についてのお話をいただいたあと、早速、はぎこを探しに和良川に向け出発しました。渇水のため、はぎこ達は普段いるところでは見つからず、午前中の部では少し焦りましたが、あるところで大集合しているのを見つけたことができました。自然のなかにははぎこの姿を初めて見て大喜びする子ども達も、おそろおそろ距離を取って水中で眺めたり、呼吸のために水面に出きたはぎこに大はしゃぎしたりしていました。午前、午後の部とはぎこを見つけたことができ、任務完了でしたが、終了後はさすがにスタッフには疲れがみえ、施設ではぎこの様になっていました。



(松明の明かりが水面を走る様子)



## 8月開催イベント 振り返り

8月は「鮎釣の教室」、「はさこ探検隊」以外にも各種イベントが開催されました。ここではそのイベントの様子をご紹介します。まず、1日に「真夏の夜の夢音楽会」が、そして4日にはろうけつ染め体験教室が「わらおこし」で開催されました。コロナ禍のなか、感染症対策を実施しながらの開催でしたが、参加者の方々がそれぞれのイベントを楽しんでいる様子が伺えました。

8月1日(土曜日)は、富安秀行さん、ほりおみわさん、照喜名俊典さんをお迎えして、真夏の夜の夢音楽会を開催しました。

今回、和良に初登場のほりおみわさんは、ゲール語で歌うケルト音楽をアカペラで披露いただき、その時の神秘的な空間に魅了されました。また、いつもの富安節も絶好調で、その場の雰囲気柔軟に仕上げてくれます。照喜名さんの世界に一つしかないユーフォニアムも、その姿の美しさと、3人のハーモニクスが引き立ちます。富安さんの歌も、ハーモニーも加わっていつもと少し違った楽しさを醸し出していました。

富安さんが作った「新田舎物語」いい塩梅の田舎で暮らそうも、みんなで盛り上がり歌いました。わかりやすくふるさとを表現した歌詞と軽快なリズムで、和良の夜の締めくくりは絶好でした。

次回の富安さんの登場は11月の予定。これも毎年恒例となる「夢の寄せ鍋音楽会」ですが、今年は少し趣向を変えて「夢の寄せ鍋演芸会」

として、落語家の柳家さん生師匠をお迎えする予定です。きっと楽しいモノになると思いますので、どうぞご期待ください。



(息のあったハーモニーを奏でる富安さん、照喜名さん、ほりおさん)

## ろうけつ染め体験教室

和良で楽しむものづくり

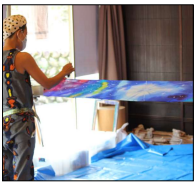
8月4日(火曜日)は、京都より岡田明彦先生をお迎えして、ろうけつ染め体験教室を開催しました。今回の参加者は大人3人と子ども7人と、にぎやかな開催となりました。子ども達も下絵から蠟付けと染色まで、しっかりと体験してくれました。それぞれが仕上げたい作品や絵

がある様で筆運びもスムーズです。

ろうけつ染めは、蠟結染、蠟縋染なども表現されますが、多くの方は蠟を乾燥させてひび割れを発生させて、独特の亀裂模様を想われるのではないのでしょうか。現在こちらでも体験いただいているろうけつ染めの手法は、少し異なります。まず、布に書かれた下絵の上に溶かした蠟を筆で塗ります。次に染料でその布を染色していきます。複数の色を使って染める場合は、この作業を繰り返していき、最後に蠟を落として完成となります。

布を染める際には最終的に表れる色を想像しながら行わなければなりません、岡田先生の的確なアドバイスにより安心して進めることができます。今回は素敵な作品が10点出来ました。岡田先生が作品を持ち帰って、脱漏(だつろう)の後に送っていただきます。みなさんの作品が到着するのを楽しみに待ちたいと思います。

(熱心に作品づくりに取り組む参加者達)



## イベント掲示板

無料オンラインセミナー  
「地域づくりを考える  
～農村地理学者からの  
アプローチ～」  
★9月22日(祝・火)  
★13:30～16:00  
★林琢也 講師(北海道大学 准教授)  
★参加費無料  
詳細は0575-77-2277まで

ちえのお灸据えます  
9月16日、23日

ちえのストレッチ  
9月24日

詳細は080-1553-8887  
(橋本ちえ) まで

## 和良町の人口

令和2年8月1日現在

